

愛媛果研ニュース

No.27 平成21年9月



宇和島管内の農業活性化に期待が大きい「ブラッドオレンジ(タロッコ)」

〈 変化する時代・売れる品種・儲かる農業へ 〉

地球温暖化、少子高齢化、世界的不況、雇用の悪化、財政破綻、政権交代など、時代は変化しています。

カンキツ農業においても同様であり、担い手不足・高齢化、消費の減退、価格低迷、一方では、多くの新品種が誕生し、品種も変遷しています。また、消費形態が温州みかんや伊予柑の一品目大量消費時代から、不知火、せとか、はるみなど新品種を加えた少量多品目時代へと変化しています。

これら変化に対応するために、売れる品種の選定が重要です。カンキツ専作経営から複合経営への転換も経営安定の一つの対策です。どの品種を作るか、どう組み合わせるのがポイントです。将来性を見極め、第一に適地適作、第二に労働配分できることです。

そのような中、宇和島管内では生産者と県、市、JAなど関係機関・団体が連携し、温暖化に対応した、機能性に富んだ「ブラッドオレンジ」に着目し、産地化に取り組んでいます。生産者の期待は大きく、栽培部会、加工技術研究協議会が発足し、活動が始まり、みかん研究所でも高品質安定生産に向けた栽培・貯蔵技術の開発を進めています。

また、愛媛オリジナル品種の「紅まどんな」、「甘平」は出荷が始まったばかりですが、食味が良く、消費者からは非常に好評で、県では栽培上の問題点を徐々に改善しており、所得向上につながる品種であると期待しています。

今回の果試ニュースは「甘平の施設栽培」「ぶらぶらハウス栽培法による不知火の高糖完熟果安定生産技術」「落葉果樹でのモモノゴマダラノメイガの発生活消長とクリでの薬剤防除」を取り上げました。儲かる農業の一助となることを願っています。